

# 沖縄西海岸道路 一般国道331号豊見城道路

## 全線暫定開通(直後)の効果

### ●交通分担率が向上

豊見城道路の交通量は約37%増加。逆に国道331号現道や豊見城市道では減少傾向が伺えます。

### ●交通渋滞緩和

翁長(北)交差点や県営潮平高層住宅前交差点の交通渋滞が解消されました。また、渋滞損失時間、CO<sub>2</sub>、NO<sub>x</sub>及びSPM排出量等の削減効果が伺えます。

### ●地域が活性化

企業誘致や雇用拡大が向上。

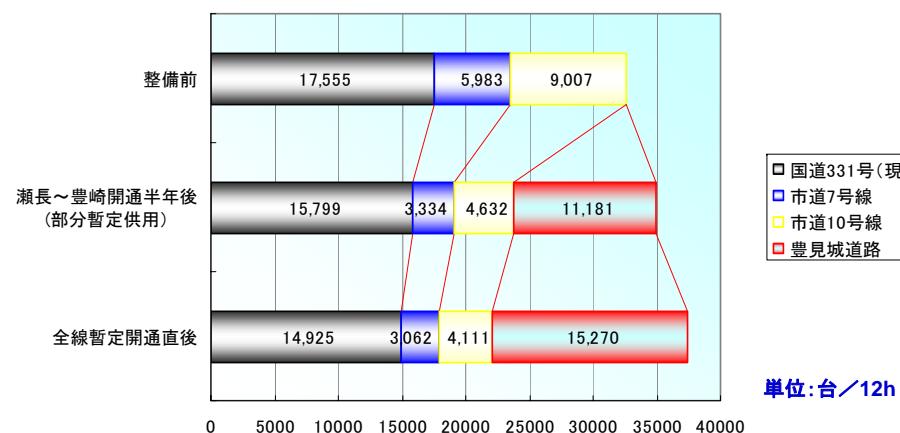
### ●利用者も効果を実感

全線暫定供用直後のアンケートの結果、交通量の減少、交通渋滞改善、那覇空港や那覇市内までの所要時間短縮など豊見城道路全線暫定開通による効果について利用者も実感。

# ◆豊見城道路の交通分担率が向上

- 国道331号豊見城道路は、平成19年3月17日、豊見城市豊崎と糸満市西崎の間が開通し、全線暫定供用した。
- 豊見城道路と並行する国道331号現道の交通量は、昼12時間あたり17,555台から14,925台へ2630台減少し、約15%削減された。
- さらに市道7号線では、5,983台から3,062台へ2,921台減少、市道10号線では9,007台から4,111台へ4,896台減少し、それぞれ約49%、54%削減された。
- 豊見城道路の交通量は昼12時間あたり11,181台から15,270台へ4,089台増えて約37%増加し、交通分担率が向上した。
- また、交通量を比較した断面の合計交通量は、整備前の32,545台から今回の開通後37,368台へ4,823台増えており豊崎地区の開発進展に伴う誘発交通の影響が推察される。
- 今回全線開通したことにより国道331号現道及び市道などの交通量が減り豊見城道路へ転換したことが伺える。

## □ 断面交通量(昼12時間交通量)



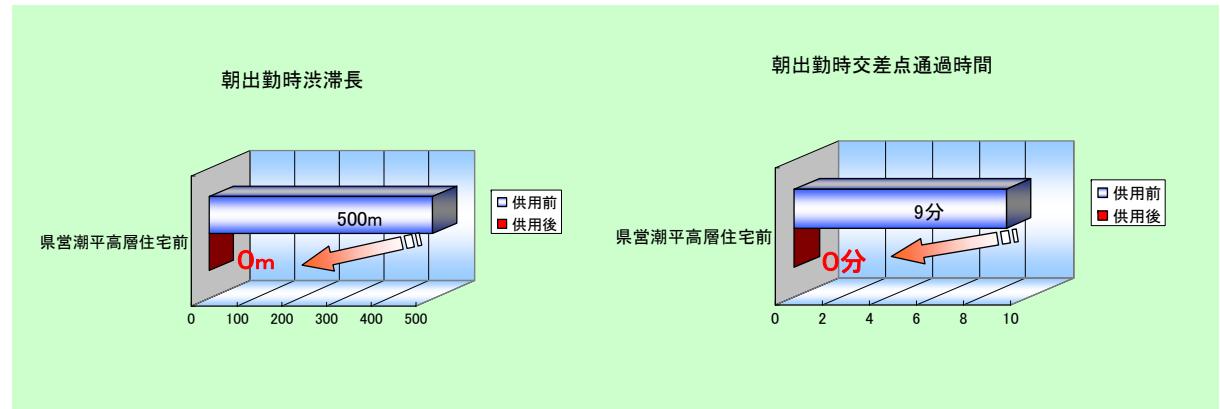
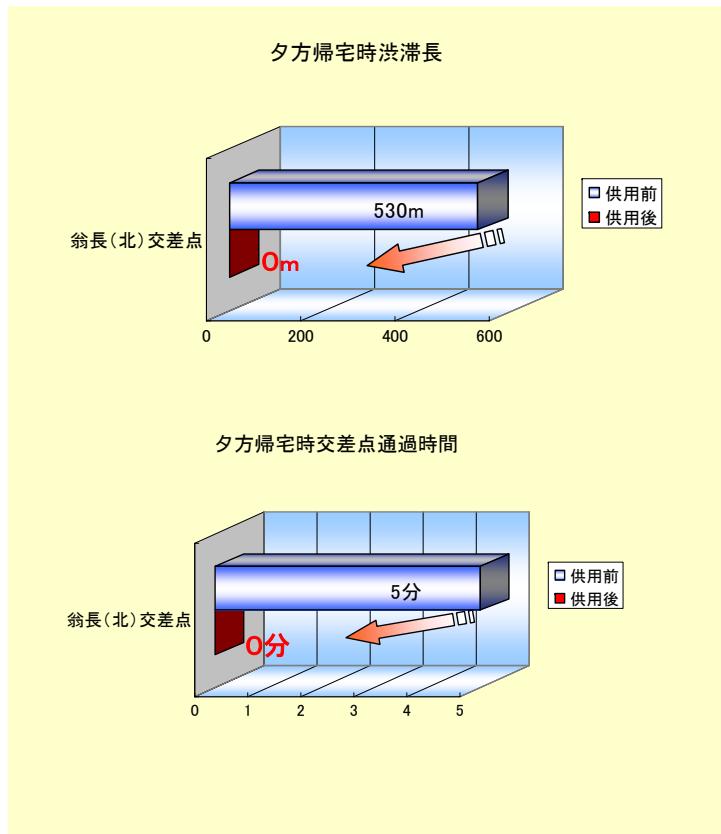
<調査日平日>

整備前:H17\_6月、瀬長・豊崎開通半年後:H18\_10月、全線暫定開通直後:H19\_3月



## ◆現道及び市道の交差点で交通渋滞解消

- 国道331号の翁長(北)交差点、市道の県営潮平高層住宅前交差点(図中の→方向)において平日の朝夕の渋滞が解消した。
- 豊崎交差点で新たに渋滞が発生。



## ◆那覇空港と西崎工業団地の所要時間短縮

□ 国道331号現道を利用して那覇空港から西崎工業団地まで29分かかっていたが、豊見城道路を利用することにより所要時間は18分、11分短縮された。

国道331号現道を利用すると**平均29分**

那覇空港から西崎工業団地まで所要時間は、  
豊見城道路を利用すると**平均18分**



注)平均所要時間:7時~19時の時間帯別所要時間の平均値

# ◆地域が活性化

- 空港から近く立地条件が良い『豊崎』で企業誘致や雇用拡大が向上。(東洋経済新聞社調査より(琉球新報H18.9.22夕刊抜粋))
- 豊見城道路の一部開通により大型リゾートホテルや自動車販売業などが内定。
- 豊見城市元広報誌へも掲載され、観光支援、地域振興が期待された。
- 豊見城市が2006年『全国都市成長ランキング』全国1位。(東洋経済新聞社調査より(琉球新報H18.9.22夕刊抜粋))



□琉球新報H18.9.22夕刊抜粋



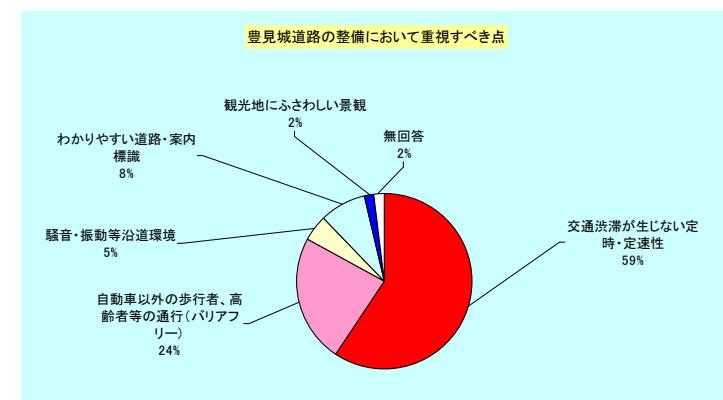
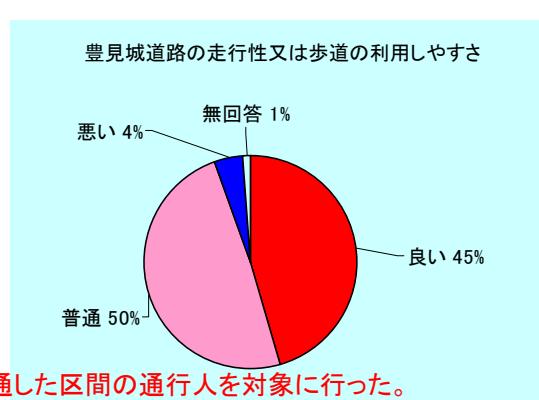
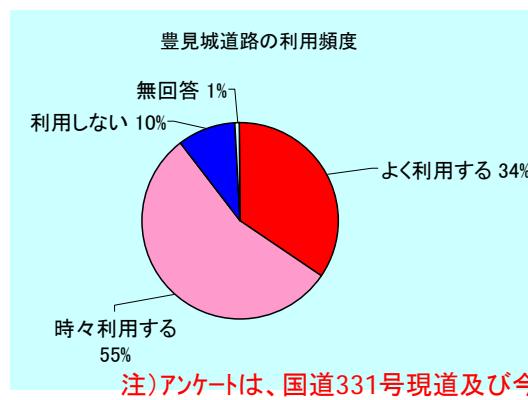
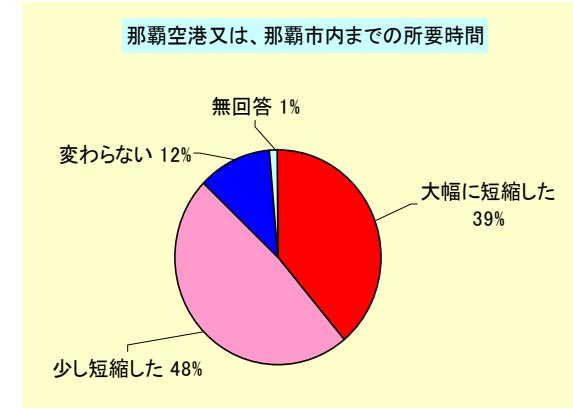
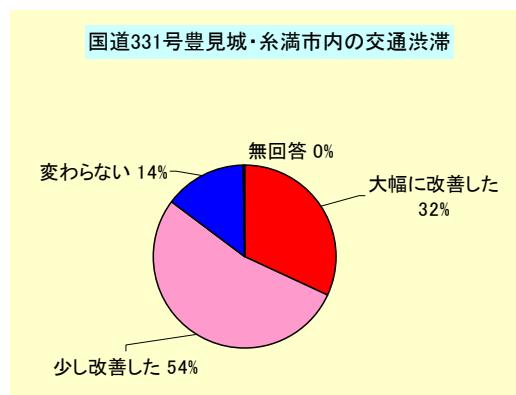
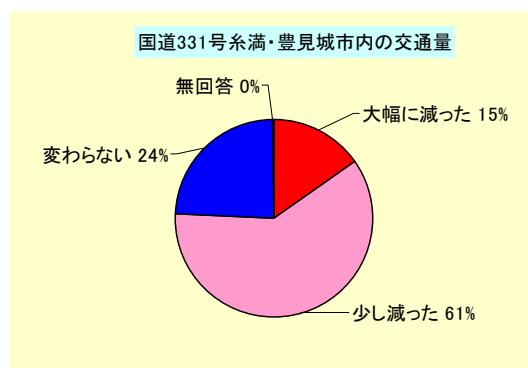
□琉球新報H18.12.29朝刊抜粋



□豊見城市元広報誌2007. 4抜粋

## ◆渋滞改善や時間短縮効果を利用者も実感

- 全線開通直後の利用者アンケートの結果、交通量の減少、交通渋滞改善、所要時間短縮等整備効果に対して好評を得た。
- 豊見城道路の利用頻度については利用するが多数を占め、走行性や歩道の利用しやすさも良いが45%を占めており、地元での周知が伺える。
- 豊見城道路の整備において重視すべき点として定時・定速性の確保の次に歩行者・高齢者等の通行(バリアフリー)が多い。
- 豊崎交差点の立体化の早期整備、わかりやすい道路・案内標識設置や観光地にふさわしい景観に配慮等の意見・要望もあった。

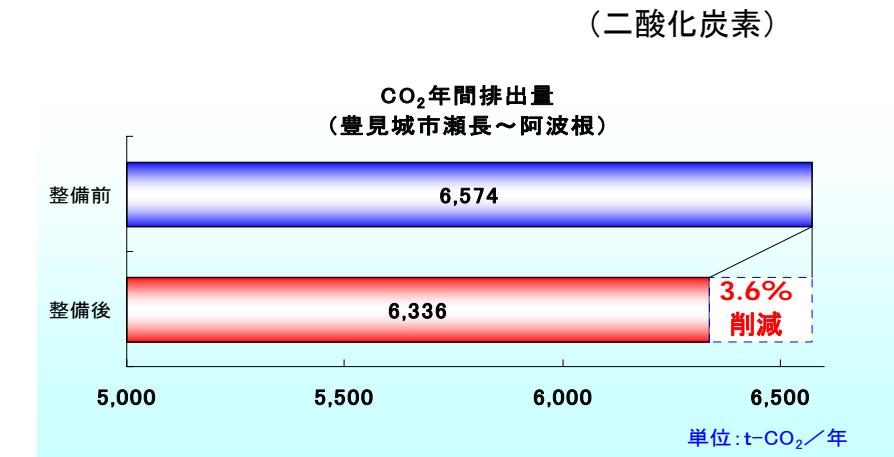
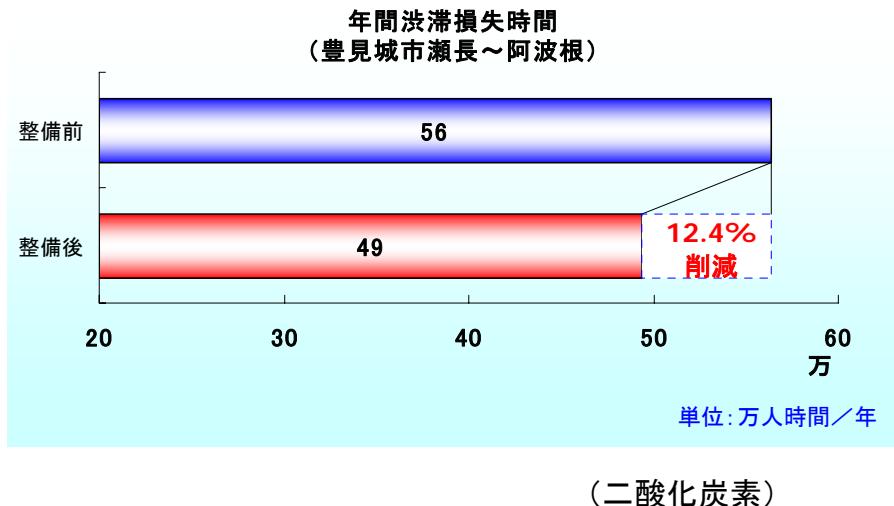


## ◆渋滞損失時間は12%削減、二酸化炭素排出量は4%削減

- 豊見城道路の並行区間における年間渋滞損失時間は、56万人時間から49万人時間へ7万人時間減少し、約12%の削減率になる。
- 自動車走行による二酸化炭素の年間排出量は6,574トンから6,336トンへ238トン減少し、約4%の削減率になる。

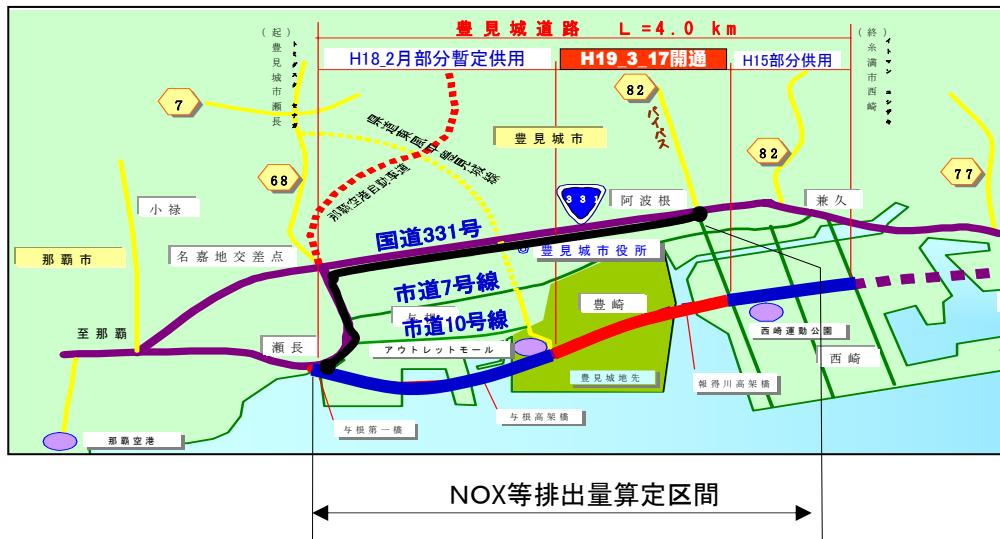


(注)各算出値は、豊見城道路供用直後(平成19年3月19日)の交通量等調査データを元に算定した。

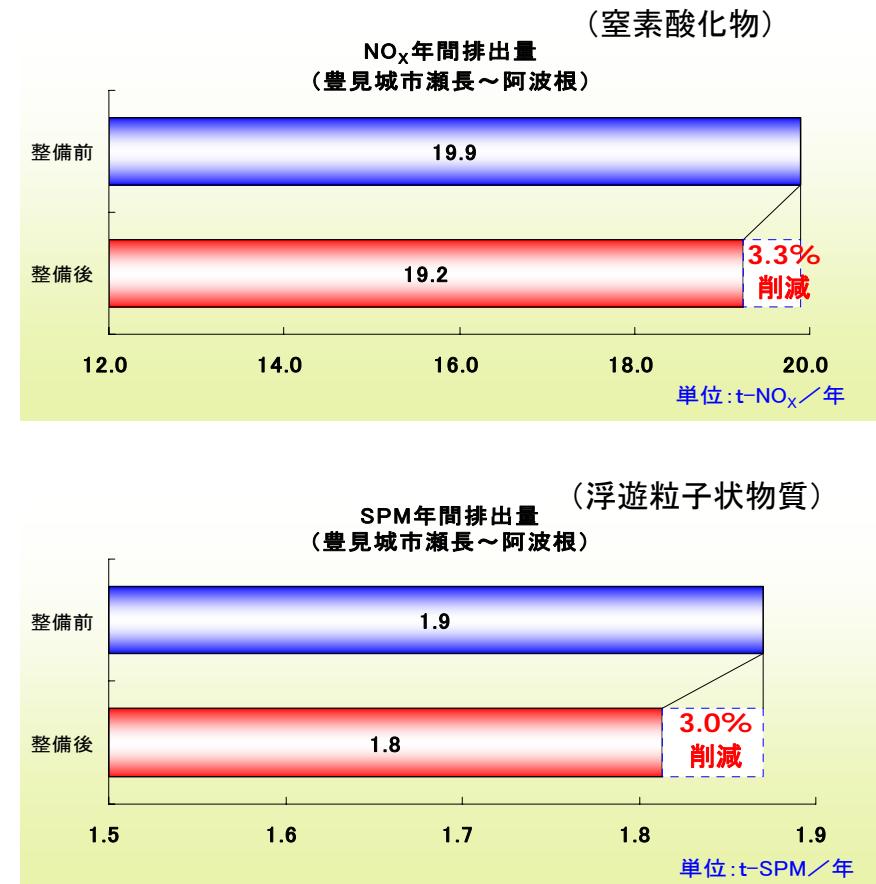


## ◆窒素酸化物、浮遊粒子状物質の排出量はいずれも3%削減

- 自動車走行による窒素酸化物の年間排出量は19.9トンから19.2トンへ0.7トン減少し、約3%の削減率になる。
- また浮遊粒子状物質は1.9トンから1.8トンへ0.1トン減少し、約3%の削減率になる。



注)各算出値は、豊見城道路供用直後(平成19年3月19日)の交通量等調査データを元に算定した。



# 国道331号豊見城道路 豊崎交差点の休日時渋滞対策について

■ 休日午後の渋滞対策として、県警本部と協議し、信号機の青時間の調整を行った結果、渋滞状況の改善が図られた。

## ＜交通状況の変化＞

<調査日> 対策前 H19\_3月21日(水)春分の日  
対策後 H19\_5月3日(木)憲法記念日

○夕方の渋滞長は対策前2,110mあったが、対策後は解消した。

○対策後は昼前に最大370mの滞留が見られたが、渋滞は発生していない。

○交通量: 対策前16,528台/12h → 対策後16,720台／12h

※渋滞の定義(人口集中地区外): 渋滞長500m以上、通過時間5分以上

図一 豊崎交差点の渋滞長の変化

